

<研究名称>

橋梗塞により嚥下障害を呈し経口摂取に難渋した一症例～ノーズクリップとバルーン拡張法によるアプローチ～

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 所 属 リハビリテーション
職 名 技師長
氏 名 木村 和久

実施担当者 所 属 リハビリテーション
職 名 係長
氏 名 中澤 肇

<研究期間>

倫理委員会承認後～2 年間

<診療・研究の目的>

舌癌発症 10 年経過後に嚥下障害が重症化した一症例—バルーン拡張法の有効性—と題する論文（廃用による食道入口部通過障害に対するバルーン拡張法の効果を示した）を「言語聴覚研究」に投稿し、掲載予定となっている。今回は脳梗塞によるバルーン拡張法の効果を示し、廃用の効果とは異なることを示す。また、既往に上咽頭腫瘍手術の影響により軟口蓋挙上不全が顕著となり、口腔内圧が得られ難い症状に対して、ノーズクリップを用いることで嚥下能力と発話明瞭度が改善したこと、経口摂取が難しかったことを報告するため。

<実施内容（方法）>

入院後 4 回の嚥下造影検査（以下：VF）を実施しており、VF 画像より食道入口部径と舌骨移動距離を計測し、バルーン拡張法前後とノーズクリップ装用前後での効果を調べる。MWST や食摂量、CRP を経時的に追跡する。

<危険性（副作用）等>

VF ではバリウムを用いるが、人体に大きく影響しない程度の使用であり、VF 実施前の説明書・同意書に記載されている

<倫理上問題になると考えられる事項>

データ提示により個人が特定されないよう、氏名などの個人情報は一切記載しない

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院

リハビリテーション

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648